

令和4年度 文京区立礪川小学校 授業改善推進プラン

＜ 算数 ＞

学年	現状分析	具体的な授業改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に学習に取り組む児童が多い。問題の解答や解き方等について、すすんで説明しようとする児童が多い。 ・ブロックや図を用いて、たし算やひき算の仕方を考えることができる。 ・たし算・ひき算の計算は、おおよそ定着しているが、数の合成・分解を活用した加法・減法の理解に差がある。 ・たし算かひき算かを判断し、立式して解く問題では、問題文の解釈に課題がある児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題提示の仕方を工夫したり、個別指導を取り入れたりしながら算数への関心を高める。 ・絵や図、文などを用いて様々な考え方ができるようにノート指導をするとともに、発表を通して自分の考え方を友達に分かりやすく説明できるよう指導を行う。 ・視覚的にも理解しやすくなるよう具体物を操作する活動などを取り入れる。 ・家庭学習やドリルタイムにおいて、合成・分解の反復学習を継続して行い、理解の定着を図る。 ・2人組や少人数などで話し合う活動を設定し、自分の考えを説明したり、相手の考えに気付いたりできるようにする。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題に取り組む際に、問題文の解釈に課題がある児童が見られる。 ・たし算やひき算の筆算の仕方を理解することはできているが、時々ケアレスミスが見られる。 ・ものさしの目盛りを正確に読み取ったり、指定された長さの直線を引いたりすることに課題がある児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文をていねいに読み取り、自分の考えを絵や図、言葉などで表す活動を繰り返し取り入れていく。 ・筆算をする際に、計算メモを見やすく書くよう習慣付けを図るとともに、ドリルタイムなどを活用して繰り返し計算練習を行い、さらなる知識・技能の定着を図る。 ・ものさしを使って実物を測定したり、ものさしをしっかりと押さえて直線を引いたりする練習を繰り返し行う。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・算数的活動に興味をもち、意欲的に取り組むことができる。 ・自分の考えを図や式、言葉を用いて表現する力に大きな差がある。 ・九九が定着していない児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペア、少人数、全体など、話し合い活動を適宜取り入れるなど、自分の考えを分かりやすく伝え合ったり、友達の考えのよさに気付いたりする場を設定していく。 ・ドリルタイムなどを活用し、繰り返し計算練習を行い、九九の定着を図る。

4年	<ul style="list-style-type: none"> わり算の筆算は、全体的におおよそ知識・技能の定着が図れているが、思考力・判断力・表現力については習熟度により大きな開きがある。 小数では、ある小数を元に10倍、100倍や、10分の1、100分の1にした数を求める際に、位を間違える児童が見られる。 分度器を使って角度を測ったり、描いたりする事に課題がある。 自分の考えを図や式、言葉を用いて表現する力に大きな差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 思考力や表現力を高めるために、解決の見通しを説明させたり、ペアや小集団での対話活動を取り入れたりする。 位取りを正しく理解できるように、位取り表や数直線を適宜用いていく。 ドリルタイムなどを活用し、繰り返し計算練習を行い、さらなる知識・技能の定着を図る。 ペア、少人数、全体など、話し合い活動を適宜取り入れるなど、自分の考えを分かりやすく伝え合ったり、友達の考えの良さに気付いたりする場を設定していく。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に学習に取り組む児童が多い。 小数のかけ算やわり算、図形の角などの計算問題については、おおよそ定着が図れているが、小数の倍の学習においては、立式をする際に数直線を活用することが難しい児童が多く見られる。 作図に関しては、作図するに当たって必要な角度や辺の長さを図に書き忘れる児童がいる。 一部児童は解答について、根拠を明らかにして説明することができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 立式をする際に数直線を繰り返し活用することで、数直線の利点を実感できるようにしながら倍の考え方の理解を深めていく。 図形の学習においては、作図の時間を多く確保することで、技能を高め、正確な作図ができるようにしていく。 中学で学ぶ「証明」やプログラミングの基本など、根拠を明らかにし、筋道立てて説明することが今後の学習に繋がることを、日頃から意識して指導する。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力調査では、全領域において全国平均正答率を上回っているが、「割合」は4割の正答率であった。立式や計算はできても、問題文や資料などを適切に読み取り、場面をを考えて判断することや、自分の考えを文章等で表現することに課題があると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章題を扱う際に、分かっていること、問われていることを明確に読み取れるようにするとともに、解答を導き出す道筋を発表やノートに記述するなど、自分の言葉等で表現する活動を多く取り入れていく。